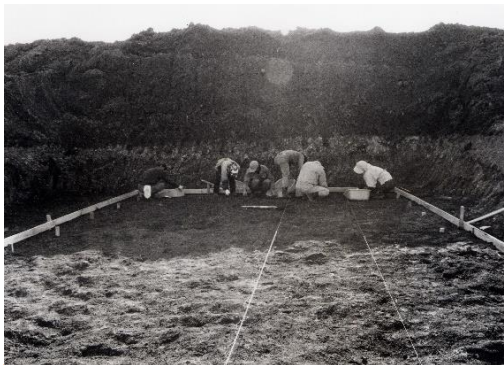




令和元年度第4回企画展

宮代の遺跡

～土の中の文化財～



会期: 令和2年3月14日(土)～5月10日(日)

開館時間

9:30～16:30

期間中の休館日

3月16・23・24・30日

4月6・13・20・27・30日、5月7・8日

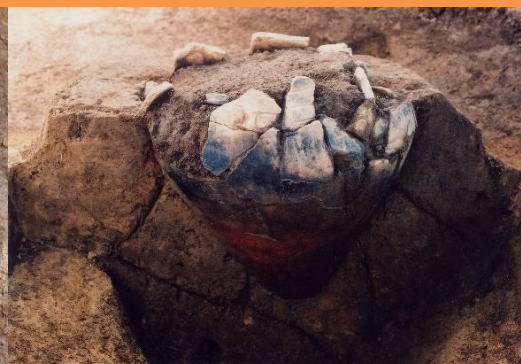
宮代町郷土資料館

〒345-0817

埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289

TEL: 0480-34-8882

FAX: 0480-34-5601



ごあいさつ

宮代町において初めて遺跡が確認されたのは、昭和 47～48 年度（1972～1973）にかけて埼玉県教育委員会が実施した分布調査の時です。この調査の結果、台地上を中心に 20 カ所の遺跡が分布していることがわかりました。昭和 49 年には、宮代町で初となる発掘調査が身代神社遺跡内で実施されています。以降、今日まで約 50 年の間に分布調査や開発等に伴う発掘調査が実施され続けており、試掘調査では 350 件以上、発掘調査では 40 件以上を数えます。

また、令和 2 年 2 月現在では 37 カ所の遺跡が確認されています。

今回の展示では、宮代町で発見された遺跡の概要を紹介するとともに、分布調査や発掘調査の成果、出土遺物等を紹介していきます。

この企画展の開催にあたり、ご指導、ご教示等頂きました関係の方々、発掘調査及び整理作業にご協力頂いた方々に深く感謝申し上げます。

令和 2 年 3 月
宮代町郷土資料館

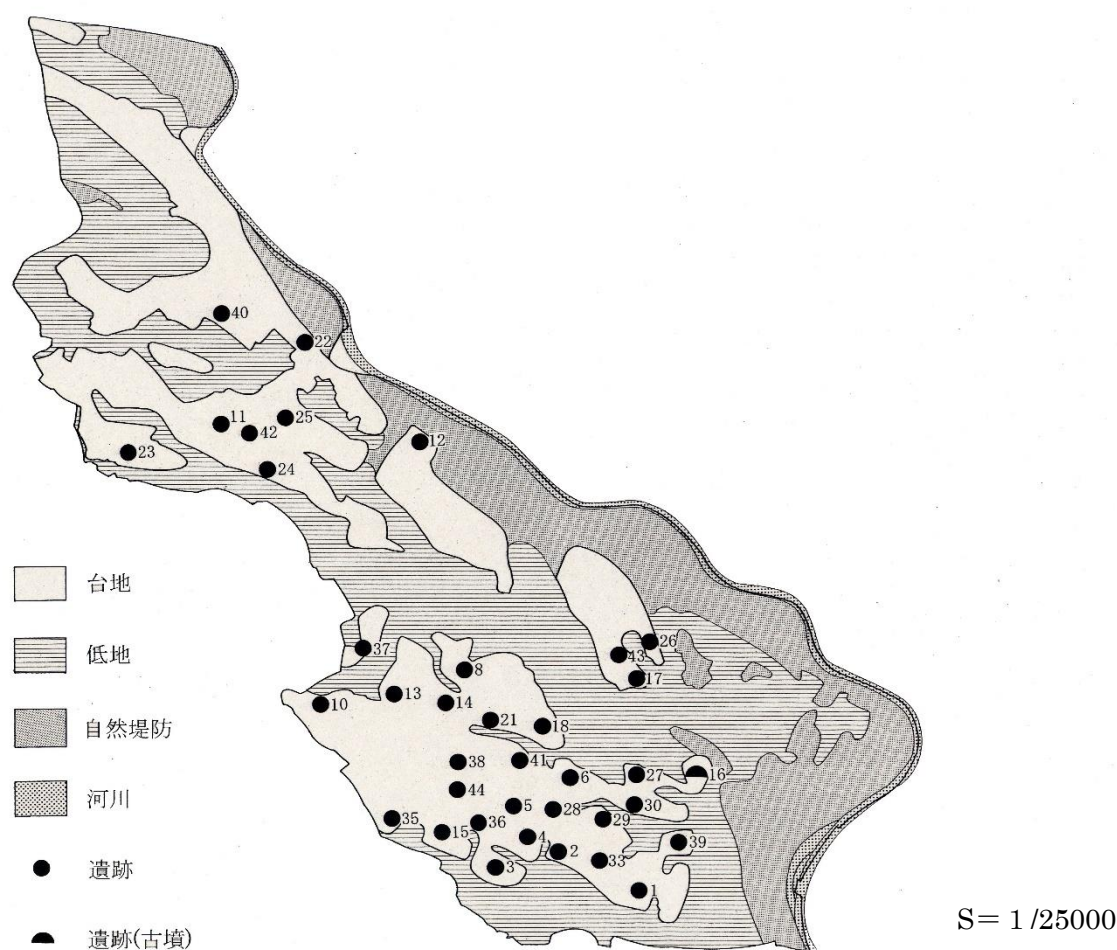
～凡例～

1. 本書は、令和 2 年 3 月 14 日（土）から 5 月 10 日（日）まで開催される、宮代町郷土資料館令和元年度第 4 回企画展「宮代の遺跡～土の中の文化財～」の展示図録です。
2. 展示開催期間中の休館日は次の通りです。
3 月 16・23・24・30 日、4 月 6・13・20・27・30 日、5 月 7・8 日
3. 展示の企画及びポスター・図録の執筆、デザイン、編集等は宮部俊周（当館学芸員）が担当し、青木秀雄（発掘調査担当者）、横内美穂（当館学芸員）が指導・補佐しました。
4. 図録の構成は、展示内容と異なります。また、掲載した写真の大きさは任意のものです。
5. 会場及び本書中の敬称は省略させていただきました。
6. 今回の展示及び図録に掲載した資料はすべて当館蔵のものです。

遺跡の立地と環境

宮代町は、大宮台地の東側周辺部にあり、町の東部には古利根川が流れています。古利根川の右岸には、和戸・須賀・川島・宮東地区のように自然堤防が発達した地域があり、台地上に1～2m以上粘土質の土が堆積しているところもあります。こうした自然堤防下の台地の遺跡としては、身代神社遺跡、須賀遺跡、国納丸屋遺跡などが確認されています。

町の南側には大宮台地が広がっており、西光院遺跡、前原遺跡、地蔵院遺跡、山崎遺跡、金原遺跡、姫宮神社遺跡、道仏遺跡、中寺遺跡など、町内の遺跡の多くが立地しています。調査の成果から、宮代町では約2万前（旧石器時代）から人々の生活が営まれていたことが確認されています。



※令和2年2月現在

宮代町の遺跡と地形

宮代町遺跡一覧

遺跡番号	遺跡名	時 代	主な遺構	主な出土遺物
1	西光院遺跡	縄文時代前期～後期 （※貝塚は後期） 室町～江戸時代		縄文土器、ヤマトシジミ
2	弥勒院遺跡	縄文時代前期～後期 奈良・平安時代 室町～江戸時代		
3	前原遺跡	旧石器時代 縄文時代草創期～後期	石器ブロック、住居跡、土坑、炉穴	石器、縄文土器、石製品、土製品
4	中遺跡	旧石器時代 縄文時代早期～後期 奈良・平安時代 室町～江戸時代	土坑、溝	縄文土器、中世土器、中世陶磁器、板碑
5	宝生院遺跡	縄文時代後期 室町～江戸時代		
6	地藏院遺跡	旧石器時代 縄文時代草創期～後期 古墳時代 室町～江戸時代	住居跡、土坑、炉穴、溝、堀、井戸跡	縄文土器、石器、中世土器、中世陶磁器、古銭
8	山崎遺跡	縄文時代早期～後期 古墳時代	住居跡、土坑、炉穴、溝	縄文土器、石器、土師器、須恵器
10	逆井遺跡	旧石器時代 縄文時代早期～後期 奈良時代 江戸時代	細石刃ブロック、住居跡、土坑、炉穴、井戸跡	石器、細石刃、縄文土器、中世土器
11	宝光寺遺跡	縄文時代後期 室町～江戸時代		
12	身代神社遺跡	縄文時代早期・前期・後期 奈良時代	土坑	縄文土器、石器、須恵器
13	山崎山遺跡	旧石器時代 縄文時代草創期～後期 古墳時代 奈良時代	住居跡、鍛冶工房跡、炉穴、土坑、井戸跡	縄文土器、石器、土師器、鉄製品、鍛冶関係遺物、玉類
14	山崎南遺跡	縄文時代早期～後期 古墳時代	住居跡、炉穴、土坑、溝	縄文土器、石器、中世土器、中世陶磁器、
15	金原遺跡	旧石器時代 縄文時代早期～後期	石器ブロック、住居跡、土坑、炉穴、埋設土器	石器、縄文土器、石製品、土製品、中世土器
16	姫宮神社遺跡	縄文時代前期～後期 古墳時代	炉穴、土坑、古墳周溝、住居跡	縄文土器、土師器、須恵器、埴輪
17	道仏遺跡	縄文時代前期・中期 古墳時代 室町～江戸時代	住所跡、土坑、道路状遺構、溝	縄文土器、土師器、須恵器、韓式系軟質土器、石器、土製品、玉類
18	宿・源太山遺跡	縄文時代前期～後期 奈良時代 江戸時代	住居跡、竪穴状遺構、土坑、溝	縄文土器、土師器、須恵器、中世土器、石器、古銭、板碑
21	星谷遺跡	縄文時代前期～後期	住居跡、土坑、溝	縄文土器、石器、中世土器
22	須賀遺跡	縄文時代早期～後期 奈良時代		土師器、土錘
23	西条原遺跡	縄文時代早期・前期		石器、縄文土器
24	東条原前遺跡	縄文時代後期 奈良時代		縄文土器、土師器
25	大崎遺跡	縄文時代前期		縄文土器
26	道仏北遺跡	縄文時代早期～後期 奈良・平安時代	住居跡、土坑	縄文土器、石器、中世土器
27	台越遺跡	縄文時代早期		縄文土器
28	中北遺跡	縄文時代前期・中期		縄文土器
29	中東遺跡	縄文時代中期・後期		縄文土器
30	藤曽根遺跡	縄文時代中期・後期	住居跡、土坑	縄文土器、石器、埴輪片
33	中寺遺跡	縄文時代後期 奈良時代 室町～江戸時代	掘立柱建物跡、竪穴状遺構、土坑、井戸、溝	縄文土器、中世土器、中世陶磁器、石器、土製品、鉄製品、古銭、板碑
35	金原西遺跡	縄文時代中期		
36	金原東遺跡	縄文時代後期 古墳時代		縄文土器、土錘
37	平島遺跡	縄文時代早期～後期		
38	新山遺跡	縄文時代中期・後期		
39	東遺跡	縄文時代早期・後期		
40	国納丸屋遺跡	縄文時代早期	住居跡・石器製作跡	縄文土器、石器
41	伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡	縄文時代中期 室町～江戸時代	掘立柱建物跡、竪穴状遺構、堀・溝、土塁、柵列、土坑、井戸、橋脚	縄文土器、中世土器、中世陶磁器、石器、土製品、金属製品、古銭、板碑
42	東条原宿屋敷遺跡	縄文時代早期 平安時代 室町～江戸時代	地下式坑、掘割状遺構、溝、土坑、井戸、方形竪穴状遺構、道路状遺構	中世土器、中世陶磁器、古銭
43	道仏上遺跡	縄文時代後期 室町～江戸時代	土坑、竪穴状遺構、溝	縄文土器、近世土器、近世陶磁器、石器、銅製品
44	金原稻荷神社遺跡	室町～江戸時代	土坑、溝、土坑	板碑、在地播鉢

※この遺跡一覧表は令和2年2月現在のものです。今後の発掘調査により、変更になる場合があります。

※遺跡番号7、9、19、20、31、32、34については他遺跡との統合により、欠番となっています。

宮代町内の遺跡の概要

宮代町では、遺跡の所在とおおよその時代のみが知られている遺跡も含め、37カ所の遺跡が確認されています。ここでは、発掘調査等の成果から明らかになっている事項について、時代別に見ていきます。

1) 旧石器時代

旧石器時代の遺跡としては、金原遺跡や前原遺跡、逆井遺跡等で石器ブロックが確認されています。前原遺跡では2カ所の石器ブロックからナイフ形石器、切出形石器と共に多数の剥片や碎片が出土しています。金原遺跡では石器集中11基、礫群9基が検出されています。逆井遺跡では、周辺地域でも珍しい細石刃せいさくしの製作址が検出され、細石核10点、細石刃46点が出土しています。

2) 縄文時代

大宮台地上を中心に、町内で数多くの遺跡が確認されています。前原遺跡からは東部地区で最も古い縄文土器（草創期の微隆起線文土器びりゅうきせんもん）が出土しています。縄文時代の集落跡がまとまって確認できるのは、金原遺跡、道仏北遺跡、山崎遺跡、地藏院遺跡などです。

自然堤防下の台地上では、国納丸屋遺跡から石器製作址を伴う住居跡が1軒検出されています。なお、縄文時代に続く弥生時代の集落は、現在までのところ、確認されていません。



逆井遺跡細石器ブロック



地藏院遺跡航空写真（昭和63年度）

3) 古墳時代・古代

古墳時代の遺跡としては、宿・源太山遺跡、山崎山遺跡、道仏遺跡、姫宮神社遺跡などが確認されています。山崎山遺跡では県内最古の鍛冶工房跡が1軒検出されています。道仏遺跡からは5世紀後半から6世紀後半にかけての、古墳時代中期から後期の住居跡が147軒以上検出され、現在のところ県内で唯一の出土例となっている韓式系軟質土器が出土しています。姫宮神社遺跡からは町内唯一の古墳群が確認されており、古墳時代後期頃と推定される円墳の周溝が検出され、埴輪片も出土しています。

古代の遺跡としては、集落跡は確認されていませんが、遺物は山崎遺跡、道仏遺跡、地蔵院遺跡、東条原宿屋敷遺跡、身代神社遺跡、宿・源太山遺跡などから出土しています。

4) 中世

中世の遺跡としては、伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡、地蔵院遺跡、中寺遺跡、東条原宿屋敷遺跡、西光院遺跡などが確認されています。

伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡では、堀や溝、掘立建物跡、土塁跡、井戸跡などが検出され、遺物は古銭、和鏡、板碑、青磁等が出土しています。中寺遺跡では、掘立建物跡や井戸跡が検出され、陶磁器、板碑、古銭等が出土しています。東条原宿屋敷遺跡からは、伝承鎌倉街道のルート上及び隣接地から道路状遺構や方形竪穴、井戸跡などが検出されています。

5) 近世

近世の遺跡としては、伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡、中寺遺跡、道仏上遺跡などが確認されています。伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡では、堀や土坑、井戸跡などが検出され、美濃産陶器、唐津産陶器などの16世紀最末から17世紀後半の遺物が出土しています。中寺遺跡からは井戸跡や近世陶磁器などが検出及び出土しています。

台地の遺跡

西光院遺跡

西光院遺跡は、現在の字東付近、宮代町の南東に位置しています。また、遺跡の範囲内には西光院や五社神社が所在しています。

昭和 47～48 年度の分布調査では、ヤマトシジミを主体とする縄文時代後期の貝塚の一部が確認されており、貝類や縄文土器も採集されています。この貝塚は、現在のところ町内で確認されている唯一の貝塚です。平成 15 年度に実施された試掘調査では、縄文土器や中世以降の土器、古銭、板碑片などが出土しています。



昭和 50 年当時の西光院貝塚付近



試掘調査風景（平成 15 年度）



西光院貝塚採集ヤマトシジミ



トレンチ出土板碑（中世）

前原遺跡

前原遺跡は、現在の前原中学校敷地内を中心として、宮代町の南に位置しています。昭和 54 年の前原グラウンドの建設の計画に伴い実施された試掘により、縄文時代早期初頭の遺跡であることが確認されました。翌年の昭和 55 年 3 月より本格的な発掘調査が実施され、縄文早期前半（^{よりいともん}燃系文期）の集落としては県内で初めての発見があり、出土した岩偶もこの時期のものとしては全国にその例を見ない貴重なものであることがわかりました。検出された主な遺構は旧石器時代の石器ブロック、縄文時代の住居跡、土坑などであり、遺物は縄文土器、石鏃や磨製石斧などの石器、垂飾といった装身具などが出土しています。また、現在のところ、東部地区で最も古い縄文土器（草創期の微隆起線文土器）も出土しています。



前原遺跡航空写真（昭和 55 年度）



第1 石器ブロック調査風景



第 8 号住居跡（縄文時代後期）



縄文時代草創期微隆起線文土器

金原遺跡

金原遺跡は、現在のはらっパーク宮代（字金原）付近、宮代町のほぼ南西に位置しています。

平成 16 年度の彩の国まごころ国体アーチェリー会場（仮称金原運動公園、現はらっパーク宮代）として建設が計画されていたことから、平成 8 年から 11 年にかけて発掘調査が実施されました。調査の結果、旧石器時代の細石器ブロック 2 基、石器集中 2 基、礫群 2 基、縄文時代の住居跡 27 軒、土坑 368 基、炉穴 31 基、埋設土器 3 基、溝 68 条などの遺構が検出され、縄文時代後期の大規模な集落跡であったことがわかりました。遺物は縄文土器、石器、土製品、石製品などの遺物が数多く出土しています。



第 7 号住居跡（縄文時代後期）



第 1 号埋設土器出土状況（縄文土器）



第 22 号住居跡埋設土器出土状況（縄文土器）



第 226 号土坑遺物出土状況（縄文土器）



第 1 号埋設土器
（縄文時代後期）



第 3 号埋設土器
（縄文時代後期）



第 22 号住居跡埋設土器
（縄文時代後期）

山崎山遺跡

山崎山遺跡は、現在のトクホン工場付近、字山崎を中心として字西原、字金原にかけて広がり、宮代町の南西側に位置しています。

発掘調査は、トクホン工場の増築や埼玉県立宮代特別支援学校建設などに伴い、昭和57年～平成5年までの期間で5回実施されています。特に、平成2年度に実施された調査では古墳時代前期（4世紀後半）の鍛冶工房跡が検出され、発見当時は「東日本最古の鍛冶工房跡」として全国的に注目されています（現在は全国的な調査が進み、県内最古の鍛冶工房跡となっています）。遺物は土師器や管玉、鍛冶関係遺物の鉄製品、鉄滓^{てっさい}、羽口、ハンマーストーンなどが出土しています。

当時の最先端技術であった鉄器生産の鍛冶技術と、第3号住居跡から出土した、大規模な集落から1個程度しか出土しない特大の壺が確認されていることから、山崎山遺跡はこの地域の中心的な集落であったことが推定されます。



鍛冶工房跡（古墳時代前期）



鍛冶工房跡出土鉄製品



鍛冶工房跡出土椀形鍛冶滓



鍛冶工房跡出土
ハンマーストーン



第3号住居跡出土土師器（特大壺）

姫宮神社遺跡

姫宮神社遺跡は、現在の姫宮神社（字姫宮）付近、宮代町の南側に位置しています。遺跡周辺から埴輪片が採集されていることや、姫宮神社本殿、八幡社辺りに墳丘のような高まりがあることから古墳群があったと推定されていました。

発掘調査は、住宅建設などに伴い、平成7年～令和元年までに数回実施されています。平成29年度の調査では、古墳時代後期と推定される古墳の周溝を初めて検出し、古墳群の一端が明らかとなりました。令和元年度の調査でも新たに古墳の周溝を1条確認し、少なくとも円墳4基の存在が認められています。また、令和元年度の調査では古墳時代前期の住居跡が1軒検出されており、古墳築造前の人々の生活の一端を確認できています。遺物は縄文土器、石器、土師器、埴輪片、須恵器などが出土しています。



東側調査区全景（平成29年度）



南側調査区全景（令和元年度）



第1号住居跡遺物出土状況（土師器）



古墳周溝調査風景（平成29年度）



第3号周溝遺物出土状況（高坏）



姫宮神社境内出土埴輪



姫宮神社遺跡出土朝顔形埴輪

中寺遺跡

中寺遺跡は、現在の字東に所在し、宮代町の南東側に位置しています。この遺跡は西光院の旧寺域である西神外から東神外の内側に位置し、戦国時代の武将鈴木雅楽助の屋敷地に隣接する百間郷の中心地であったと推定されます。

平成 10・14 年度に発掘調査が実施されており、掘立建物跡、井戸跡、土坑、溝跡が検出され、遺物は陶磁器、板碑、古銭などが出土しています。



調査区全景（平成 10 年度）



第 2 号井戸遺物出土状況（板碑）



第 2 号井戸出土板碑（中世）



第 2 号掘立建物跡出土内耳土鍋（中世）

伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡

伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡は、現在の字西原に所在し、宮代町の南東側に位置している中世から近世の城館跡です。

中世では百間郷の城郭や居館として、近世初頭では旗本服部氏の陣屋（百間陣屋）として機能していたと推定されます。遺構は堀や井戸、溝、土塁跡などが検出され、遺物は古銭、和鏡、板碑、青磁、美濃産陶器、唐津産陶器などが出土しています。



調査区全景（平成 13 年度）



調査区全景（平成 15 年度）



第 3 号井戸遺物出土状況（石臼）



第 4 号溝遺物出土状況（志野皿）



第 6 号溝遺物出土状況（和鏡）



第 2・6 号溝出土播鉢（中世）

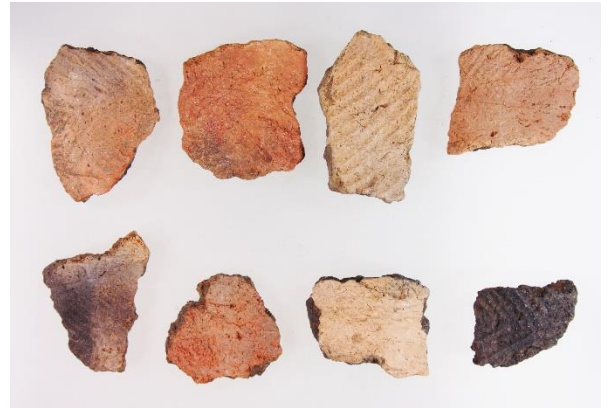
自然堤防下の遺跡

身代神社遺跡

身代神社遺跡は、現在の学園台1丁目付近、宮代町のほぼ中央に位置しています。昭和49年度の学園台団地造成に伴い、宮代町としては初となる、本格的な発掘調査が埼玉県遺跡調査員であった山本良知氏の指導のもと実施されており、町の発掘調査史において重要な遺跡となります。発掘調査の結果、縄文時代前期と推定される土坑8基が検出され、縄文時代前期の土器を主体として、石器、古代の須恵器などの遺物が出土しています。



調査区全景（昭和49年度）



グリッド出土土器（縄文時代前期）

須賀遺跡

須賀遺跡は、現在の大字須賀付近、宮代町の北東に位置しています。遺跡の北東約320mには古利根川が流れており、この川の氾濫の影響で自然堤防の粘土質土が約1.5m堆積しています。

本格的な発掘調査は実施されておらず、数回の試掘調査を実施しているのみです。昭和62年度の調査では縄文土器、古墳時代後期の土師器が出土し、平成11年度の調査では縄文土器、近世以降の^{すりばち}播鉢などが出土しています。住居跡などの明確な遺構は現在のところ確認されていません。



調査風景（昭和62年度）



トレンチ出土土師器
（古墳時代後期）

国納丸屋遺跡

国納丸屋遺跡は、現在の国納保育園（大字国納字丸屋）付近、宮代町の北東の自然堤防下の台地上に位置しています。

国納保育園建設に伴い、平成 9 年度に発掘調査が実施されました。調査の結果、縄文時代早期～前期の住居跡 1 軒が検出されました。この住居跡からは縄文土器のほか、石器や剥片が数多く出土したため、石器製作址であったと推定されています。



調査区全景（平成9年度）



第 1 号住居跡（縄文時代早期～前期）



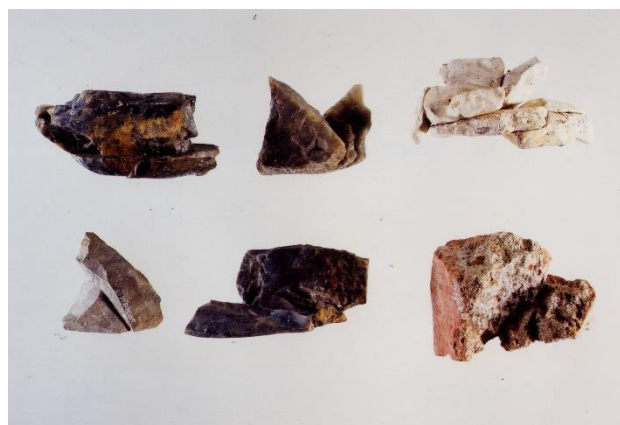
第 1 号住居跡遺物出土状況（石鏃）



第 1 号住居跡遺物出土状況



第 1 号住居跡出土石器



接合された石器の剥片

道仏北遺跡

道仏北遺跡は、現在の道佛1・2丁目付近、宮代町の中心よりやや東側に位置しています。

大型商業施設建設などに伴い、平成15・18～19・20年度に発掘調査が数回に渡り実施されています。調査の結果、縄文時代早期から中期にかけての住居跡、土坑、炉穴、古墳時代の住居跡などが検出され、縄文時代時代前期から中期初頭にかけての大きな集落跡であったことが確認されました。遺物は縄文土器、石器、土製品、石製品、勾玉などの玉類が出土しています。また、現在のところ、町内で唯一の出土である獣面把手土器3点が出土しています。



道仏北遺跡航空写真（平成18～19年度）



第4号住居跡出土勾玉（古墳時代）



第35号土坑遺物出土状況（縄文土器）



第35号土坑出土土器
（縄文時代中期）



第1号住居跡（縄文時代前期）



グリッド出土獣面把手土器（縄文時代前期）



第1号住居跡出土土器
（縄文時代前期）



第1号住居跡出土土器
（縄文時代前期）



第1号住居跡出土土器
（縄文時代前期）



グリッド出土土器
（縄文時代前期）



グリッド出土土器
（縄文時代前期）



グリッド出土土器
（縄文時代中期）

道仏遺跡

道仏遺跡は、現在の道佛3丁目付近、宮代町の中央やや南東側の古利根川右岸、大宮台地東側縁辺部に位置しています。道仏遺跡の東約1 kmの位置には、利根川の本流であった古利根川が流れています。

発掘調査は、道仏土地区画整理事業に伴い平成9年～26年までの期間で5回実施されています。その結果、5世紀後半から6世紀後半にかけての古墳時代中期から後期の住居跡147軒を始めとして、土師器焼成坑などの遺構が検出され、同時代に大規模な集落が形成されていたことがわかりました。遺物は土師器、須恵器、韓式系軟質土器などをはじめ、漁労に使用した大型土錘や管状土錘、土玉も出土しています。この他、剣、鏡、玉類のミニチュアで祭祀に使用された石製模造品やフイゴの羽口、鉄滓といった鍛冶関連の遺物も出土しています。



道仏遺跡航空写真（平成26年度）



道仏遺跡出土韓式系軟質土器



第140号住居跡出土須恵器（甕）



第120号住居跡出土須恵器（坏）



第41号住居跡出土須恵器（坏蓋）



第 75 号住居跡竈遺物出土状況（土師器）



第 175 号住居跡（古墳時代後期）



第 1 号住居跡出土
土師器（甕）



第 75 号住居跡出土
土師器（甕）



第 75 号住居跡出土
土師器（甕）



第 21 号住居跡出土
土師器（壺）



第 139 号住居跡出土
土師器（壺）



第 23 号住居跡出土
土師器（高坏）



第 1 号住居跡出土土師器（坏）



第 19 号住居跡出土土師器（坏）

まとめ

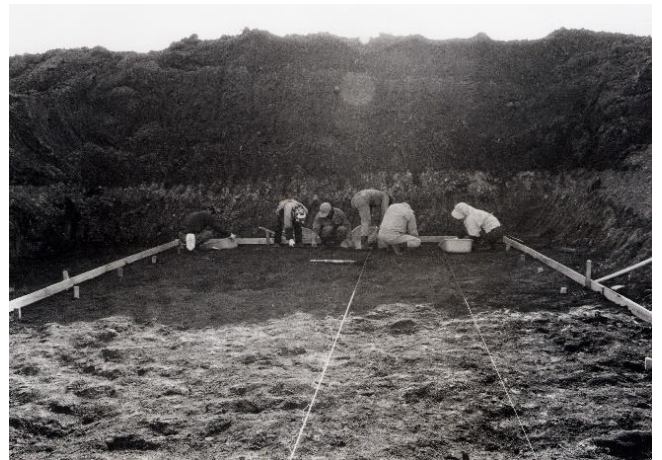
発掘調査とは、遺跡を掘り下げながらその記録をおこなって、過去の人々の生活などについて調査することです。遺跡には、過去の人々の暮らしを知るための大切な情報がたくさん詰まっており、発見された場合、元々の状態でずっと残したままで将来まで伝えていくことがとても大事なことです。しかしながら、町が発展し、私たちが生活していくためには、道路や建物などの工事は必要であり、遺跡が眠っている場所で実施しなければならない場合もあります。もし、遺跡を破壊してしまったら、そこにあった昔の人々の暮らしを知る手がかりは永久に失われてしまうことになります。そのため、遺跡を壊すことにはなりますが、工事の前に遺跡を掘り下げて記録で残していこうという目的で発掘調査をおこないます。

この時に残された記録だけが、開発などにより失われた遺跡のことを知るためのただ一つの情報となるので、何が、どの場所から、どのような状態で出土したのか、などの非常に細かい記録を残す必要があります。そのため、発掘調査では、時間はかかりますが人の手による精密で丁寧な調査をしなければなりません。

大切な遺跡の記録を将来に伝えていくため、これからも皆さまのご理解とご協力を頂きながら適切に発掘調査を実施していきます。



姫宮神社遺跡調査風景（令和元年度）



身代神社遺跡調査風景（昭和49年度）